



教科横断型授業(化学×英語)

谷口 溪 教諭 1・2年 普通科「化学」

昨年度3月に1・2年を対象に、化学実験を全て英語で行う、化学と英語の教科横断型授業が行われました。担当は化学専門の谷口先生とALTのアンガス先生です。プリントも全て英語であり、谷口先生はこの授業では日本語は話さなかったそうです。生徒の感想では「普段の英語で学ばない単語を話して良かった」「とても楽しく、全ての実験を英語にしたいと思う」などがあり、中には感想も全て英語で記入した生徒もいたそうです。しかし、英語に苦手意識をもつ生徒は、実験もうまく進めることができず、実験そのものの目的が達成されない状況もあったそうです。これを今後の課題としてどんどんチャレンジを重ねていきたいと考えております。(記載：小原)



武高授業改善PT(武高Active)の活動は3年目に突入しました！今年度も昨年に引き続き、「大学入学共通テスト」「新学習指導要領」「ICTの活用」「教科横断型」「第3期SSHとの連携」に向けた授業改善を目的としています。すべては武生高校の生徒のために！

H31 授業改善PTメンバー紹介

顧問：奥村貢(地学) 相道孝志(地歴公民)

リーダー：小原崇裕(物理) 野村幸史(数学)

今川大輔(数学) 糸見千晶(地学)

山崎泰代(英語) 田中寛人(国語) 宮内佐知子(国語)

辻崎千尋(国語) 吉村満美(英語) 五十嵐基博(数学)

松原宏実(保健体育) 高橋真樹子(化学) 福島健一郎(数学)

角正康弘(家庭科) 杉坂卓哉(地理) 鈴木和堯(英語)

谷口溪(化学) 竹林亜紀(数学) 河寄美涼(国語)

室井浩貴(世界史)

以上22名(4月末現在)

今月の公開授業 「水の東西」

辻崎 千尋 教諭 1年7組 「国語総合」

日本文化と西洋文化の比較文化論を学習していく過程で「日本人とは？」という大きい「問」を投げかけ、日本人の「感性」を生徒に考えさせた。KJ法を用いて、まずグループで日本人のイメージを考えることで糸口をつかませた。

今回の公開授業では大きなヒントをいただいた。それは授業を参観して下さった先生方からいただいたご意見である。

「この授業で教えたことは？」(川内教頭)

→学習の核となる部分が見えにくかったのは反省点である。

「議論をしたあと、その内容をどう深めるかが課題」(奥村先生)

→まず、10分程度では無理であり、次時に持ち越して継続する予定である。

「議論が深まったことをどう検証するのか？」(田中校長)

→これは絶対に外せない項目であり、自分自身も模索中の課題である。

この3つのご意見はどれも重要であり、「特に田中校長からのご意見は今年度自分自身で取り組もうと思っている評価にも関わってくる部分であり、生徒に書かせた授業の「振り返り表」を継続実践することで、対話や記述の内容の「深まり」について勉強していきたい。



第1回PT会議より

4/17(水)16:40~被服室にて、今年度第1回の授業改善PT会議を行いました。谷口先生から授業実践報告のあと、相道先生から「社会を考える～名前の変更～」「哲学カフェ～顔～」の授業実践報告がありました。続けて、同じく相道先生から「大学共通テスト」の記述式の正答率について新聞記事を元にした情報提供がありました。それを題材に数学や国語の先生方から意見が出てきました。その後の研修では、「今年度、授業改善PTを通してチャレンジしたいこと」をテーマにグループごとに議論しました。「新しくなったPC室を使いこなしたい」「教科横断型授業をしたい」「先生方の悩みやアイデアが共有されるような研修を行いたい」などと活発な意見交流がなされました。ぜひ、実践のための一歩を一緒に踏み出してほしい、と思っています。

毎月1回の会議は全職員にご連絡します。もっともっとたくさんの先生方が集まると、より活発な議論になりそうです。

【ひとりごと】昨年度は毎月公開授業が行われていました。本校の公開授業は各先生方が自ら公開授業を企画し、全校に参観者の募集をかけています。今年度も早速辻崎先生が公開授業をされ戦陣を切ってくださいました。私もしっかりと続いていければ、しかし、武生高校の先生方は積極的だなぁ、と思います。

(4月担当 小原)